

須磨海岸

相田真麻

私は生まれも育ちも大阪、日本橋です。親がふぐ専門店を営んでいたのが(黒門市場)、黒門市場と言うにぎやかなエリアに住んでいました。今このクラスを受けてみて気付きましたが、私は周りのみんなよりも幼い頃から“水”が商売、そして生活の一部となっている人と深く関わってきた。



しかし、私は幼稚園から須磨、神戸にあるインターナショナルスクールに通学していた。幼いころに学校帰りに須磨海岸(私は須磨ビーチと呼んでいた)によって、貝殻を拾っていたことを覚えている。しかし、毎日の通学路が長かったため、10年ほど前に家族と須磨に越してきた。今の家は須磨ビーチから歩いて30秒ほどのところに住んでいる。

須磨ビーチはそんなに大きいビーチではない。端から端まで歩いて約2, 30分だろう。海のある方向に立って右を向くと明石海峡大橋が見える。左を見ると須磨海浜公園と言うテニスなどのアクティビティなどができるエリアが少しばかり見える。ビーチの左端にはヨットを停める場所があるので、ヨットなどもみえる。ビーチの左端に歩いて行くと須磨水族館もすぐそばに見える。沖のほうを見ると、タンクや、大きな船がよく見える。たまに空を見上げると飛行機もみえる。その頻度も神戸空港ができてからは増えた。

朝と夕方や夜、その時の時間帯でビーチの姿は全く違って来る。朝のビーチでは釣りをしてるおじさん、犬の散歩をしている年輩の方々が目立つ。基本的にはあまりきれいとはいえない海岸だが、朝は午後に比べて水が透き通っており、きれいだ。防波堤を歩くと、魚などがみれたりする。

午後や夕方になると、水に浮かぶゴミや油が目立つ。とても汚い。オレンジ色の泡やドロドロした、いかにも汚染された水に浮かぶクラゲなどが見れる。ビーチにいるひ

とも全く違う。通学帰りの学生が遊んでいたり話していたり、夕方の散歩を楽しむ人などが目立つ。学生が遊んでいるのを見ると、本当に“青春”という感じがする。

須磨海岸についての事をウェブサイトで検索してみた。短い説明がついていた。須磨海岸はJR須磨駅を降りるとすぐそこにある。海水浴シーズンには神戸や大阪からの海水浴客が訪れ、その数は毎年100万人を超える。海岸の長さは約1800m、幅は約50mから150mに及ぶ。白い砂浜と、須磨海浜公園あたりに植えられてる青い松林は兵庫風景100選、日本の白砂青松100選、日本の渚100選に指定されている。海岸からは明石海峡から瀬戸内海、明石海峡大橋や淡路島を見渡せる。海水浴シーズンでは全国的なアクアスロン大会、ビーチバレー大会などのイベントも開催される。



2008年夏

ウェブサイトより



須磨ビーチでの思い出

これは5年ほど前の夏休みの日だった。友達たちと一緒に海辺で花火をしようといった。友達や私の親も一緒にきた。親たちは海の家で飲みながら話していた。若い私た

ちは海辺ではしゃいだりした。すると、急に夜の海がピカッと光ったようにみえた。そんなわけないだろうと思い、はじめは無視していたのだが、私の友達も海が光った！といった。そして水の近くに行くと、打ち寄せる波が浜辺を当たった瞬間、水がピカッと光った。一回だけではなく、何回も何回も光った。なんだろうと恐る恐る水に触れると触れた水すべてが光った。なんだろうこれ？

光の正体は夜光虫の大群だった。(写真1, 2:その時写真はとらなかったが、インターネットで似た光景の写真を見つけた)

打ち寄せる波

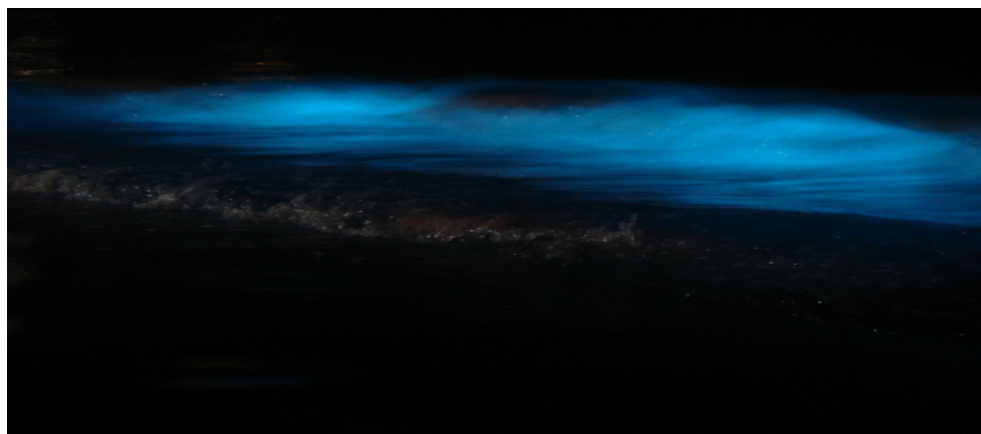


写真3:光の正体

これは須磨の海岸ではとてもレアな現象だと見に来ていた釣り人が言った。興奮した私たちはその水を手で汲み上げ、海へ投げた。するとその衝撃で海がピカーッと水面が光った。本当に幻想的な光景だった。長い夏休みのとある夜に来てこんな貴重な現象をみれたのは本当に奇跡的であり、一生の思い出になった。それから私はその夜光虫を含む水をペットボトルに組み上げ家に持って帰った。明かりのそばでよくみると、小さなプランクトンみたいな生物がぷつぷつといた。部屋を暗くしてペットボトルをちょん、とデコピンするとペットボトルが光った。とてもウキウキした。その日は夜光虫を頭のそばに置き、眠った。しかし次の日には夜光虫は死んでしまった。

今回年末に実家に帰った時に近くで釣りをする人や散歩をしている人に昔の川の様子を聞いてみた。すると、いろんな意見を頂けた。一番多かった意見は、「昔はきれいだった」という意見。ゴミも少なく、水も今みたいには濁っていなかったようだ。そのあとには、海水浴シーズンでは家族づれが減った、釣れる魚が変わった(小さくなったり、種類が少なくなったり)。

確かに私が小さかった頃と比べると今の夏の須磨ビーチははしゃぐ若者がナンパするために来る、というイメージが定着してしまい、家族づれは本当に減っていた。

このコメントについて深く考えてみた。須磨ビーチを訪れる人の意識が変わったのではないかと。ビーチで海水浴を楽しむと言う特権と言っていいものを当たり前のように使っているのではないか。ビーチは自然の一部である。そんなビーチは何一つ私たちから望まず、私たちにありのままの姿で楽しみや生活していくうえで必要なものを与えてくれる。もっと深くいくと、人と人との関係を養い、培っていく上での手助けもしてくれている。須磨ビーチは今「愛されている」ではなく、「使われている」傾向が目立っているのではないか。人の「使わせてもらっている」という意識の表れだと思う。夏に海水浴をするためだけにビーチに来るというのも人間の勝手な都合である。ビーチは人間が勝手をして、何も怒らず、そのまんまである。しかし、そのまんまでいるのに、次は「ビーチが汚いからいけない」などさらにひどいことを人間は言う。最小限のありがたみがあるのなら、人はビーチをきれいに使うし、最低限のマナーは守るはずだ。人間の私には到底わかることの出来ないことであるが、須磨ビーチはそれすらも受け入れるほど優しい心をもっているのか。これが須磨ビーチにとって幸せなのだろうか？

私は自然の中におかれる人間の一人として、自然を生活のために使われせてもらう代わりに、最低限のマナーを守り、ありがたみをもって、須磨ビーチがさみしくならないように人に訪れてもらったりしてほしい。

参考文献

須磨海浜公園/須磨海岸・須磨海水浴場と須磨赤灯台

http://kobe-mari.maxs.jp/kobe/suma_beach.htm

夜光虫の写真

<http://image.blog.livedoor.jp/zusitto123/imgs/2/b/2b83e398.jpg>

<http://www17.plala.or.jp/iwasaki/kic/jpg/yakoutyuu%5B1%5D.jpg>

http://images.google.co.jp/imgres?imgurl=http://www.accion.co.jp/images/umihotaru/hotaru_002.jpg&imgrefurl=http://www.accion.co.jp/umihotaru.html&usg=__jbLwh3eN0mfmXydNeoS1uuePIck=&h=180&w=180&sz=20&hl=ja&start=15&tbnid=5wF6XotE13g0YM:&tbnh=101&tbnw=101&prev=/images%3Fq%3D%25E5%25A4%259C%25E5%2585%2589%25E8%2599%25AB%26ndsp%3D18%26hl%3Dja%26lr%3D%26sa%3DN